

第1回東御市地球温暖化対策地域推進計画検討委員会議事録

H21.8.20(木) 13:30～
東御市勤労者会館2階大会議室

【出席者】

(委員)

佐藤 哲委員、今井 道博委員、清水 賢司委員、久木田 淳委員、石川 昭隆委員、関 正喜委員、高藤 圭一委員、関 幸枝委員、森 まり子委員、新田 詔三委員、中澤 亥三委員、荻原 猛委員、工藤 浩平委員

〔欠席：宮原 則子委員、正田 寿男委員〕

(事務局)

山浦市民生活部長、土屋市民課長、小菅市民課生活環境係長、寺田市民課生活環境係主査、西本技術部長（玉野総合コンサルタント）、中根係長（玉野総合コンサルタント）

【配布資料】

- ・ 会議次第
- ・ 東御市地球温暖化対策地域推進計画検討委員会設置要綱
- ・ 事業概要、策定体制
- ・ 東御市地球温暖化対策地域推進計画の位置づけ
- ・ 東御市地球温暖化対策地域推進計画の策定スケジュール
- ・ 資料1 東御市地球温暖化対策実行計画（区域施策）策定の主旨
- ・ 資料2 地球温暖化対策地域推進計画重点施策検討シート

【議事】

1. 開会

委嘱状の交付

2. 花岡市長あいさつ

3. 委員自己紹介

4. 検討委員会の役割及び任務について

事務局より検討委員会設置要綱の説明

5. 委員長及び副委員長の選出

事務局より委員長に佐藤委員、副委員長に宮原委員を推薦し、了承される。

6. 会議事項 東御市地球温暖化対策地域推進計画の概要について

説明資料 「事業概要、策定体制、位置づけ、スケジュール」

「資料1 東御市地球温暖化対策実行計画（区域施策）策定の主旨」

7. 報告事項 に関する委員からの意見と回答

【数値目標について】

中澤委員

この計画では、何年までに何%削減するといったものは示されるのか。

事務局

15%ありきではありません。削減目標はまだ決まっていない。

佐藤委員長

この委員会の議論の中で、基準年や数値目標を示していくということですね。

【東御市の1人当たりのCO2排出量について】

久木田委員

東御市の一人あたりのCO2排出量が、全国や長野県と比較して多いのは何故か。

事務局

東御市の人口が少なく、製造業が多いことが要因となっています。

【緑によるCO2の吸収について】

中澤委員

緑によるCO2の固定については、対策に入らないのか。みんなで木を植えれば削減対策になるはず。

事務局

森林整備、植栽の増加はひとつの手法と考えている。市民、事業者、行政の役割の中で、実効性のある取り組みとして検討していく。

佐藤委員長

排出量の削減だけでなく、吸収源の強化の考え方も必要とのご意見だと思う。

【削減目標の根拠について】

佐藤委員長

削減目標設定の根拠を市民に知っていただくことが重要と考える。

地球温暖化は2~3 が許容限界と考えられ、それ以上になると災害の可能性が高くなる。

このままだと大気中の CO2 濃度は 570ppm 程度まで上昇してしまう。対策を早めに講じ、400ppm 程度で安定させないと 2 以上の上昇になってしまう。これらが IPCC の報告書に記載されていると思う。400ppm 程度で安定させるためには、全世界で 2050 年までに CO2 排出量を半減する必要があり、先進国では 80%削減につながる。

この目標は無茶な目標ではなく、適えるべき目標と考えている。

荻原委員

地球温暖化という言葉はよく聞くが、その原因を市民はよくわかっていない現状がある。市民レベルの目線で、啓蒙活動が必要である。なぜ必要かという根拠を示すことが重要である。

8. 報告事項

説明資料 「資料2 地球温暖化対策地域推進計画重点施策検討シート」

9. 報告事項 に関する委員からの意見と回答

【市民の取り組みやすい施策について】

佐藤委員長

市民一人ひとりが温暖化に取り組みやすい施策・仕組みを自治体が講じる必要がある。

【施策の効果について】

中澤委員

先ほどの話とつながるが、何年までに何%減らすには、削減効果の積み上げが必要になる。施策の効果が分からないのでは、積み上げができない。

佐藤委員長

資料を見ると「削減効果の評価可能性」の部分が空白になっているものが多く見受けられる。

事務局

各施策の具体的な削減効果までは、まだ把握できていない。今後、重点施策における削減効果を示していきたい。

佐藤委員長

「削減効果が示せるものが重点施策」といった考え方も出来る。

【生活確保とのバランスについて】

工藤委員

CO2 削減にあたって、生活の確保はどうするのか。代替エネルギーを示していく必要がある。緑による CO2 の吸収と併せて示していく必要がある。

佐藤委員長

市民が受け入れやすく、有益な対策が必要とのことだと思ふ。

事務局

今までも、緑化推進などを市民のみなさんに取り組んでいただいている。自分の庭の垣根としてだけでなく、CO2削減への取り組みとして緑が大切といった周知を行っています。農林課から出ている森林整備の施策は、松喰い虫などの影響でマツが枯れているため、樹種転換などを行ない、森林・里山を整備していくものです。

CO2の排出を削減するだけでなく、吸収施策についてもご意見を受け、行っていきたいと思います。

佐藤委員長

代替エネルギー、新エネルギーについても、協議が出来ればと思ふ。

【東御市独自の施策について】

新田委員

他市のまねをするのではなく、東御市独自のアイデアを出し合ってはどうか。「省エネルギー実現のすすめ」という記事を毎月書いている。これは自然エネルギーを利用した、小型水力発電、バイオマス発電などがある。目的を高くもち、イメージをすることで、独自の施策が必要。エネルギー管理士として、地元のエネルギーを利用し、地域活性化になるよう、本委員会の案は重要。

地球温暖化はエネルギー - 問題、食糧問題と言える、地球の10億人が食べられない状況にある。海外ではエネルギーの奪い合いである。しかし、日本では40%の自給率しかない。東御市の考えがないとありきたりのものになってしまう。どうせやるなら、少し変わったものがやりたい。

佐藤委員長

先進的で、創意工夫ができるか。他の自治体で既にやられていることでない、新しいことを東御市の実情に合ったものをやりたいとのことだと思ふ。

一方で、先進事例を把握することも重要なため、いずれ事務局よりご紹介していただきたい。どこまで高い目標を掲げるか、目標数値の設定は、次回委員会で議論するというところでよろしく願います。

【ガス会社の取り組みについて】

久木田委員

ガス会社としては、ガスを使っていたきたいが、CO2削減に向けて省エネの取り組みを行っている。燃料電池などの取り組みについては、経済的に成り立たないため普及が進んでいない。先進事例について、次回以降資料提供する。

佐藤委員長

2050年の80%減には新しいテクノロジーが必要になる。それらが使いやすい形で提供されるよう行政の支援が期待される。

事務局

ガスの関係については、東御市に福祉の森でコージェネを行い、ガスの余熱を利用する計画があったが実現に至らなかった。ガスを使うのが環境に悪いのではなく、効率よく使うことが必要だと思います。

【東御市の環境特性について】

中澤委員

東御市の特徴は高低差が有り、南斜面で、日照が多く、森林が多いところだと思うが、そのような地域特性を活かしたい。

佐藤委員長

東御市の環境特性を活かすということだと思う。東御市の森林面積を示していただきたい。かなり高いと思う。日照量などの環境特性の整理もお願いします。

【委員会の感想について】

森委員

標高が1000mを超えた箇所では、太陽光のパネル設置は難しいとのことを聞き驚きました。高い箇所では風力発電になるのでしょうか。

また、全国や長野県と比較して東御市の一人当たりのCO2排出量が多いのがショックです。東御市は緑も多く良いところなのに。電気量のチェックやレジ袋の削減、ごみを出さないなど色々やっているのですが、よりよい案をみなさんで考えて出さなくてはいけない。ただ、頂いた施策の資料を見ますとCO2の削減効果が出ておらず、頑張っても成果が見えない。今後この会で勉強していきたいと思います。

関(幸枝)委員

オール電化がCO2削減と思っていたが、電気についても発電するところがあり、送電線で引っ張ってきている。あらためて、全体から考えなくてはいけないと思いました。

事務局

東御市の家庭、業務部門のCO2排出量は低い数値となっており、みなさんの施策の効果が出ていないわけではありません。施策効果については、レジ袋が基準年からどれだけ削減されたかなどの数値を算出したいと考えています。また、庁内会議を通じて実現可能で、野心的な施策の数値目標を設定していきたいと思います。

佐藤委員長

全国、長野県を見ると、年々CO2排出量は増加しており、東御市だけ数値で高い低いと論じては仕方ない状況にある。先進国に住む私たちはCO2排出量を劇的に減らさなくてはいい

ない。これは東御市に限った話しではない。

【リサイクルと経済効果について】

高藤委員

リサイクルの仕事をしている立場からご意見させていただくと、100%リサイクルは不可能です。マテリアルリサイクルはできないことはないが、プラスチックなどでは劣化は避けられない。燃やすのが一番経済的でジレンマがある。リサイクルできない場合についても焼却となる。できるだけリサイクルしようとはしている。例えば木屑はセメント会社で発電などに使い、灰はセメントに入れて利用できる。しかし、単純焼却した方がはるかに安く、リサイクルが選択されない。県内の焼却会社を紹介されてしまう状況もある。CO2に配慮するためにはお金がかかり、その必要性が認識されていない状況にある。計画を立てる中で、方向性を示して欲しい。

佐藤委員長

費用対効果の概念が必要だということだと思います。リサイクルがしやすくなる仕組みを創ることが必要だと思います。

【市民と連携した施策の必要性について】

荻原委員

施策について数値目標がないのは問題である。また、施策が型にはまった感がある。施策を課ではない形でまとめたほうが良い。施策は課ごとではなく、市全体で取り組んでもらいたい。環境省や国土交通省のデータベースからダウンロードするなどして、施策の効果を示していただきたい。

市民の啓蒙活動が大事である。本当に分かりやすい説明をしないと市民には納得できない。緑の中で遊び育たない子供には、緑への理解がない。大人になってもわからない。高い目標をたてるのも良いが、低い位置からの出発点を見出してやっていくことが重要だ。

佐藤委員長

市役所内部の委員会と当委員会とのキャッチボールの話があった。ボールを投げ返しておくことが大事。数値目標については、内部で再度検討して示していただきたい。費用対効果を考慮し、実現性のある施策を示していただきたい。施策については新エネルギー、ゴミ、ライフスタイルなどにグルーピングをしていただきたい。その中から重点施策として定義していただきたい。

【次回の委員会に向けて】

佐藤委員長

委員の皆様こんなことが出来ないかといったアイデアを持ち寄って欲しい。また、その時間を作っていただきたい。

10. 今後の日程について

事務局

次回は10月中旬に開催します。日時は追って連絡します。

以 上

委員会後

佐藤委員長

次回は10/13(火)15:00～又は10/6(火)15:00～でお願いしたい。